

平成26年11月 6日

ロータリーはなぜホテルで例会をするのか？

本日は金子克也ガバナーをお迎えしての例会です。後で卓話をお願いしています。また、例会終了後フォーラムを開催しますのでご指導のほどよろしくお願ひします。

「ロータリークラブ」の名称は、会員の職場を巡回しながら例会を開くことに由来します。しかし、いつから巡回するのをやめ、ホテルで開くことになったのでしょうか。第2710地区を見ましてもほとんどがホテルで例会を開いています。

シカゴ・ロータリークラブの第1回の会合は、1905年2月23日、レストランで夕食をとった後、鋳山技師の事務所に4人が集まりました。第2回目は、3月9日7人がポール・ハリス弁護士事務所に集合、第3回目は、3月23日8人が石炭置き場に集まりました。シルベスター・シールが初代会長に選ばれました。また、この会には保険業のチャールス・ニュートンが新入会員として加わりました。その後、洋服店、不動産事務所、印刷所と持ち回りで会を開催しました。

以上6回までは本来のローテーションが機能していました。しかし、第7回目からはホテルに会場を移しました。いずれにしても当時はすべて夜間例会でした。

ある時、チャールス・ニュートンが例会に遅れました。遅刻をすれば罰金を払うことになっていたもので、さっそく50セントの罰金を支払うように言われたそうですが、ニュートンは食事に時間がかかったとの理由で支払いを拒否しました。これがきっかけになり、話し合いがなされたようです。最終的には、ニュートンの提案で、レストランで食事を済ませ、各事業所持ち回りで例会をするようになりました。さらにその後レストランで夕食と例会を一緒にするようになりました。しかし、会員数が増えるに従い、レストランでは賄えなくなり、ホテルへ移動したようです。因みにシカゴ・ロータリークラブの会員数は、1905年末には30人、1907年には87人、1909年には300人と増え、事業所持ち回りやレストランでの開催は事実上不可能になったと思われます。ニュートンは昼例会のアイデアを最初に提案した人として記録されています。これが、例会場をホテルに移した理由です。

ホテル開催の話題から外れますが、チャールス・ニュートンは特筆すべき人物だったと思います。ポール・ハリス、マックス・ウォルフと共に最初のクラブ定款を作った人です。また、クラブのルールを厳しく守った人だったそうです。クラブ内の会員相互のトラブルを調停する一方、支払うべきお金は期日までに納めるよう会員に厳しく言ったそうです。また、200人以上いた会員のうちロータリー精神に合わない会員100人を一時に退会させたエピソードも残っています。仕事もやり手で、会員200名のうち180人を保険に加入させたそうです。

各種の委員会活動も熱心でしたが、会長就任だけは拒み続け、会員歴18年目に当たる1923年になってやっと引き受けたそうです。

また、カリフォルニアのオークランド・ロータリークラブは、シカゴ、サンフランシスコに続き3番目のクラブとして、1908年に創設されました。会場はオークランドホテルで、昼例会を恒例化しました。歴史上、昼例会の始まりとされています。食事風景は、現在の私たちと全く同じだそうです。つまり、100年以上も昔のまま続けていることになります。

その後、ホテルでの昼例会が普及し、1920（大正9）年創設の東京ロータリークラブも同じ形式が採用され、現在に至っています。

これで本日の会長の時間を終わります。